

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2673300071		
法人名	社会福祉法人はしうど福祉会		
事業所名	グループホームいわきの里		
所在地	京都府京丹後市丹後町岩木985番地		
自己評価作成日	平成28年2月12日	評価結果市町村受理日	平成28年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kagokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2673300071-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成28年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・まずは、皆さん食欲が有り、元気に過ごされています。入院中は食事が入らなくても、退院して直ぐから食事が入る状態です。皆さん食事制限は無く、カロリーを控えている方が居られるくらいです。食材は季節の物を使っていますが、時々ご近所からいただいた物が有ると、献立を急遽変更し美味しいうちに頂いています。併設の小規模多機能とは利用者は勿論、職員も定期的に交流の機会を設けたり、入所前に住んでいた地区の小規模多機能や、知人が利用されている同法人のデイサービスに行ったりし、地域の方々との交流をしています。平均年齢90、8歳。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは家庭的で安心できる環境を作り利用者に寄り添い個々の残された力を活かしながら暮らせるような支援を大切にしています。毎日ミーティングで利用者に合ったケアについて話し合い自立支援に繋げたり、今年度は誕生日に利用者や家族、職員と一緒にいきたい場所や外食に出かけ楽しみごととなるよう個別外出に取り組んでいます。地域との関係も良好で日常的な交流の他、ホームにボランティアが来訪した際には地域の方を招待し一緒に楽しんだり、地域の運動会やどんど焼きへの参加、文化祭に作品を出展するなど地域の方々や交流しています。運営推進会議では8地区の民生委員や区長、ボランティア、近隣の方など多くの地域の方の参加を得て、災害や感染症、認知症ケア等のテーマを決め活発な意見交換が行われ、地域と共にホームのサービスの向上に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はよく見える所に掲示してあるが、日々のケアや会議の中で理念に通じることはしていても、あえて内容についての話をすることがない。	家庭的な環境作りや尊厳やプライバシーの確保、寄り添う介護の実践、残された力を活かすこと等が謳われた理念を掲げ、ホームの廊下に掲示し常に意識できるようにしています。管理者は会議の中で利用者の力を使うことを意識しケアに当たれるように働きかけたり、寄り添う介護を研修テーマにして実践に繋げています。	管理者はケアの中で寄り添う介護を実践できるようにしていますが、新人職員にも理念について伝えたり職員と話すなど共有する機会を持っていないため、会議等で理念に込められている思いや実践に向け話し合い、共有されてはいかががでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的ではないが、特定の方が入所者の様子を気にして寄って下さることはある。今年度は併設の小規模多機能と合同企画で『茶話会』と称し、地域の方々と接待し、一緒に慰問やおしゃべりを楽しんだ。また、野菜などの頂き物もある。	自治会に加入し回覧板を利用者と一緒に行ったり、近隣の方から野菜等が届くなど日常的な交流の他、ホームにボランティアが来訪した際には地域の方を招待し一緒に楽しんでいます。地域の運動会やどんど焼きに参加したり、文化祭に作品を出展するなど地域の方々と交流しています。利用者も参加する地域の敬老会では職員も体操等のレクリエーションを担当しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	『茶話会』に参加していただいたり、区の敬老会に参加するなど話す機会を持った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではその都度、利用者の現状を報告している。	会議は8地区の民生委員や区長、ボランティア、近隣の方、市の保健師、家族等多くの方の参加の下、隔月に開催しています。ホームの状況や行事等の活動報告の後、毎回災害や感染症、認知症ケア等のテーマを決め意見交換をしています。地域の行事や災害対策などの情報をもらい運営に活かしています。家族の参加が得難く、全家族に案内し会議録を送り参加を呼び掛けています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議には常時保健師に参加してもらい、状況報告をすることで、実状を知ってもらい、助言ももらっている。	運営推進会議には市の保健師が参加しホームの状況を知ってもらっています。また市の主催する管理者の会議が2か月に1回開催され出席し、情報を得たり意見交換を行いながら良好な関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の地域密着3事業所合同で、身体拘束についての勉強会を行い、『言葉の拘束』について、各事業所独自の取り組みを行っている。	法人が行う身体拘束についての研修を管理者が受け、ホーム内で伝達しています。身体拘束委員から言葉による行動の制限についても行わないように毎月目標が挙げられ、振り返りながら適切な対応ができるよう取り組んでいます。玄関や居室の掃き出し窓にも鍵は掛けず、利用者に寄り添いながら自由な暮らしを支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉かけについても不適切な言葉は虐待に値することを、職員間で確認しつつ、振り返る機会を持っている。		

グループホームいわきの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所としては学ぶ機会を設けてはいない。以前、権利擁護事業を受けていた利用者が居られたが、退居された。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に行っているつもりである。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回(5月、11月)の家族会を継続している。世話になっている、という思いが前面に出て、要望が聞き出せていないと思われる。	利用者からは日々の関わりの中で傾聴し、家族の面会時や介護計画の見直し時に意見や要望を聞くようにしています。また年に2回の家族会では居室等の掃除や食事を一緒にしてもらい、利用者の生活を知ってもらいコミュニケーションを図っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中や、部署会議では討議し、内容によっては地域密着会議、主任会議、運営会議へと繋げている。	毎月行う職員会議では発言する職員が偏らないように配慮したり、年に2回個人面談を行う中で職員の意見ややりたいことなどを聞いています。管理者は非常勤職員にも随時面談を行い相談や意見を聞くようにしています。また食事や余暇、合同レクリエーション等の委員から提案が出されサービスの向上に活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年間で職員の入れ替わりが何度もあり、なかなか聞けていないのが現状である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の異動や退職により、職場内が落ち着かないこともあり、研修が有っても積極的に参加出来ていない。しかし、月に1度の部署会議で行われている持ち回り研修(全職員が順番に講師となっている)は継続できている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京丹後市内のグループホームで2ヶ月に1度の意見交換会が行われており、参加して情報交換や学びの場となっている。管理者も2ヶ月に1回管理者の集まる会議に参加している。		

グループホームいわきの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入所者に関しては、事前に収集した情報に頼るだけでなく、職員個々が直接収集した情報を共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、及び入居時に、施設、家族夫々の役割を説明している。ケアマネや担当職員は家族の面会時などに状況を伝え、季節の変わり目には衣類などの交換をお願いする電話を掛けたりしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人から真意を聞き出す事は難しく、家族から思いを聞かせて頂きプランに反映している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活リズムを確立し、利用者、職員が一緒に過ごす時間を共有できるようにしている。年数の経過とともに介護する場面が増えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診が家族対応となっている殆どの利用者に対しては、その時が情報共有の場となっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元にある小規模多機能へ遊びに行ったり、馴染みの美容室へ行ったり、デイサービスに来られる馴染みの理髪店の方に散髪をしてもらったりしている。また、デイサービスに馴染みの方が利用されている日は遊びにいたりしている。	友人や兄弟の来訪があった時には居室にテーブルやいすを準備し、お茶を飲みながらゆっくり過ごしてもらえるように配慮しています。居室に電話を置いている方がおり電話を掛けたり、ドライブを兼ねて自宅を見に行くなど馴染みの関係が途切れないように支援しています。家族の葬儀や法事に出かける際には家族と連絡調整をしたり準備をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりとなると、限られた方々のみとなっている。また、利用者同士のトラブルを防ぐためにホールでの席の配置に配慮している。		

グループホームいわきの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同じ法人の特養に入所された方が居られ、職員に情報を伝えたり、何度か面会に行った。また、数名の利用者と共に、他町の特養に入所された方の面会に行った。長期療養を要する為に退居となったが、見舞いに行ったり家族と今後の相談もしていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を聞きいられるように、まずコミュニケーションを図ることを考えている。	入居前には以前利用していた事業所や入居していた施設から情報をもらったり、直接本人家族と面談し意向や思いを聞いています。入居後に関わりの中から得られた嗜好についての情報は丁寧に記録に残し、思いの把握が困難な場合は日々のミーティングや職員会議で本人本位に話し合い、意向や暮らし方の希望を把握するよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートや面会時に家族から得た情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や毎日実施しているミーティングにて、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議開催までに夫々の職員に見直しをしてもらい、集約した上でケア会議を開催している。	本人の思いや家族の意向の基アセスメントを行い、サービス担当者会議を開き介護計画を作成しています。6か月毎に全職員から意見をもらいまとめて評価を行い、必要に応じて医師から意見をもらい家族や担当職員、ケアマネジャーが参加するサービス担当者会議で検討し介護計画を見直しています。状況に変化のある時は随時見直しています。	アセスメントはおおよそ1年毎に行っていますが、より利用者の状況に合わせた介護計画となるよう介護計画の見直しに合わせ再アセスメントを行われてはいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	項目に応じた内容の記録をするように心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員の異動、退職が立て続けにあり、今までの事を継続するのがやっとの状態であり、多機能化までには至らなかった。		

グループホームいわきの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	祭りには太鼓輿に寄ってもらい、見物している利用者は勿論、太鼓を叩かせてもらった方は生き生きとした表情を見せていた。また、同地区の運動会や敬老会に参加するなど、地域住民との交流を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は9名中、7名が家族対応となっており、その際には主治医宛に情報提供を準備している。	入居前のかかりつけ医を継続してもらい、個々に応じた期間で家族の同行を基本に受診しています。受診時には利用者の状況を書面にして渡し、家族から受診結果を聞いています。家族状況に応じて職員が同行し、利用者の体調の変化に合わせ主治医に連絡を取り指示をもらい対応しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所には看護師が居ないため、併設の小規模多機能の看護師に必要に応じ相談に乗ってもらったり、対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院前のカンファレンスの出席は必須としており、地域医療連携室との調整も行っている。入院しても短期間で戻って来れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前には『終の棲家』ではないことは伝えてあり、ほとんどの方が特養の申込みをされている。	入居時に重度化した場合には看取りの支援は行えないことを説明しています。入院したりホームでの対応が難しくなった場合は、病院でカンファレンスを開いたり、家族と話し合いを行い方針を共有し、できる限りの支援をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	この1年間で職員の異動、退職とめまぐるしく、日々の介助が優先され、訓練が実施されていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施。訓練時には近隣の方に参加していただいております。その都度評価もしていただいております。市主催の訓練には数名の利用者と一緒に参加しています。	年に2回併設する事業所と合同で消防署の協力の下、昼夜を想定し火元を特定し通報や初期消火、避難誘導等を行っています。運営推進会議では防災についての議題を挙げ話し合ったり、毎回近隣の方の訓練への参加が得られるなど、地域との協力体制作りに向け働きかけています。	

グループホームいわきの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	地域密着3事業所内独自で、言葉の拘束について取り組んでいる。アンケートを取ったり、目標を掲げたりし、振り返りも行っている。トイレの声かけは本人の耳元で言うようにしている。	入職時に接遇・マナーの研修を行い、入職後は職員会議等で事例を出しながら尊厳やプライバシーを大切に言葉遣いや対応を伝えています。日々声のトーンや羞恥心に気を配り、決めつけない対応や親しすぎない言葉遣いに注意しています。毎月の目標として言葉掛けについて等の目標を立て日々振り返りを行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生会ではご本人の希望メニューを聞き、一緒に食べたりする程度であり、その他については殆どが職員が提案しており自己決定できるような働きかけが足りない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先させてしまっていることが多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度の散髪以外に馴染みの美容室へ行き、時にはパーマをかける方もある。毎朝、ひげそりしてもらっている方もあり、剃り残しについては職員が行っている。衣類については入浴後の服と一緒に選ぶことにしているが、極一部の方のみ。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には希望を聞いて、好物を提供している。野菜の皮剥きや刻みなどしてもらい、食べる時には手伝ってもらった物が入っている事を伝えて配膳するようにしている。	基本的には食事委員が中心になり栄養バランスを考えた献立を立て、誕生日には利用者に食べたい物を聞きいたり、季節の行事に合った食事や旬を感じられるよう配慮しています。畑で採れた野菜や到来物が食卓にあがることもあり、食材を切ったり皮をむくなどできることに携わってもらい食事作りをしています。利用者の体格に合わせたテーブルの高さにも配慮し、職員も同じ食卓に着き和やかな食事の時間となっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は毎日チェックしており、少ない時には声掛けして摂取してもらったり、水分が少ない方には好物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては毎食後、嗽をしてもらっている。就寝前には自分で義歯を磨く方もある。義歯は夕食後に預かり、洗浄剤に1晩漬けている。自歯がある方は歯磨きをそてもらい、仕上げ磨きを職員がしている。		

グループホームいわきの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を記入し、時間を見てトイレ誘導している。入院中、尿便意の訴えも無くオムツ対応だった方も、退院後直ぐにポータブルトイレへ誘導するなどし、今では自分でトイレに行かれている。独歩不可能な方でも、介助しトイレ誘導している。また、コスト面については担当職員中心に検討している。	トイレでの排泄を基本とし、排泄チェック表を用いてパターンを把握し個々のタイミングでトイレに行けるように支援しています。入院によりおむつを着用して退院してきた利用者にも立位や歩行状況に合わせてポータブルトイレを置いたりトイレで排泄できるように支援しています。日々のミーティングで個々に合った排泄用品の選択や支援方法を話し合い、自立に向けた支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	殆どの方が、下剤を服用しており、チェック表を見て調整している。ヨーグルトやヤクルトを個人購入されている方もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2～3日に1回の間隔で入浴日を設定しているが、受診や便汚染があった場合はその方を優先している。骨折して入院され、退院後は浴槽に入れずシャワー浴となっている方が1名居られる。	毎日午後に入浴の準備を行い、利用者には週に2～3回基本的な日を決めておやつの後から夕食前に希望を聞きながら入ってもらっています。冬は脱衣場の温度も調整し、利用者と一緒に準備し一人ずつゆっくりと入ってもらい、ゆず湯を行い季節湯を楽しんでもらうこともあります。拒否される方には言葉掛けを工夫しながら無理の無い入浴を支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は約1時間程横になってもらっているが、3名の方はホールで過ごされている。季節の変わり目には家人にその時に応じた寝具の準備をお願いし、心地良く眠れるようにしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルが作成してあり、受診毎に差し替えてあるため必要時には確認できる。服用時は必ず職員が介助し、飲み込んだことを確認してチェックしている。また、介助した職員は名前を書くことになっており、何かあった時には確認しやすいようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や調理の手伝い、雑巾縫いなどしてもらい、職員は感謝の言葉を伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	年に数回、外出行事を行ったり、天気の良い日は散歩やドライブに行っている。何名かの自宅付近を通ることもある。家族の協力にて、外出、外泊をされる方もある。	天気の良い日には散歩に出かけたり、ドライブや玄関先で外気浴するなど、外に出る機会を作っています。法人の大型バスを利用してドライブができ、花見の際には外食をしたり、紅葉狩りには弁当を持って出かけるなど、ボランティアの協力もあり外出行事を楽しんでいます。誕生日には個別外出として家族と共に行きたい場所へ出かける支援をしています。	

グループホームいわきの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一名お金を預かっている方がいるが、孫やひ孫が面会に来られた時に、ご本人からお小遣いとして渡せるように支援している。お金の使用については職員が対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族宛て年賀状に一言書いていただいているが、それも2～3名のみである。電話機が設置してある部屋が1つ有るが、職員が対応しないと自分では掛ける事が出来なくなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	今日が何日かが分かるように大き目のカレンダーが掲示してある。脱衣場、居室など室温調整に心掛けている。また、季節毎に玄関やトイレに花を飾っている。	和風の造りで温かみがあり、玄関やリビングには雛飾りや生花などの季節が感じられる飾り付けを行い、和室には床の間もあり家庭的な雰囲気の中、利用者同士の関係性にも留意し座席を決め落ち着いて過ごせるように配慮しています。廊下に複数のソファや椅子を置き一人や少人数で過ごせるよう工夫したり、利用者と一緒に作成した貼り絵を飾るなど居心地の良い共用空間作りをしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中はほとんどの人がホールで過ごされている。ちぎり絵作成の時には数名が一緒に同じ事に取り組んだ。廊下のソファに座り、話をしている方も時には居る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には馴染みの家具を持参していただいている。入所後に手がけた作品や家族の写真を夫々飾っている。	入居時に使い慣れた馴染みの物を持って来てもらうよう伝え、購入される方も多い中使い慣れた筆筒や椅子、棚、テレビ等を持ち込み、利用者の安全性に配慮し動きやすいよう配置しています。家族の写真や家と同じように刺繍の作品を飾ったり、趣味だった編み物の道具を置きその人らしい居室となっています。居室の掃除は利用者と一緒に行う人もおり、また換気や温湿度調整にも配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行不安定な方の部屋では、家具が支えになるような配置をしたり、ベッドから転落しても最小限の痛みになるように畳や布団を敷いている。		